

様式1

令和元年度指定管理者モニタリング評価表

施設名	羽咋市老人福祉センター		
指定管理者	羽咋市社会福祉協議会		
住所	羽咋市鶴多町亀田17番地	選定方法	公募
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日		
指定管理料	13,230千円(令和元年度現計予算額)		
評価担当課	地域包括ケア推進室		
年度重点目標	各町で運営しているサロン等への積極的な呼びかけによる新規利用者の開拓や、人気講座の充実による既存利用者の維持を図る。		

評価項目	評価する内容の詳細	評価		確認方法	備考
		中間	年間		
1 職員配置などの実施体制	仕様書・事業計画書どおりの人員配置がなされているか。	A	-	書類	勤務日誌確認、出勤簿は社協にて保管
	事業計画書に則した職員研修が実施されているか。	A	-	書類	社協全体で年2回(4、6月)実施 福祉避難所研修(11月)実施予定
	指定管理業務の全部、又は主たる業務を再委託していないか。(届出済みの業務委託部分は除く)	A	-	書類	すべての再委託については市へ届出をしている
2 施設、設備及び備品の維持管理の状況	仕様書等に基づき適正に維持管理業務が実施されているか。	A	-	書類	管理台帳確認
	整理整頓・清掃がなされており、植栽等についても美観を損なっていないか。	A	-	現地	年4回利用者による奉仕作業 運転手による剪定 浴場、トイレ以外は職員による清掃
	法定保守点検について、点検内容、時期等が法令基準に基づき実施されているか。	A	-	書類	管理台帳確認
	保守点検において、異常が認められていた場合、また、修繕が必要な箇所が見つかった場合、適切な処置が実施されたか。	A	-	書類	異常なし
	備品等に過不足がなく、適正に管理されているか。	A	-	書類	管理台帳確認
3 サービス向上への取組状況 (アンケート調査による意見及び対応は項目9に)	ホームページなどで積極的に情報提供が行われているか。	A	-	現地	社協のホームページ、各種チラシなどで行事等の啓発
	特定の利用者を優遇したり、法令に基づく手続を経ることなく、利用を制限している事例はないか。	A	-	聞き取り	なし
	利用者に対して満足度について調査(アンケート・意見箱の設置等)を行ったか。	A	-	書類	7月実施済(7/8～7/19) 利用状況、健康状態等の把握
	苦情・トラブルに対し、適切・迅速に対応しているか。	A	-	聞き取り	苦情だけでなく、各種要望に可能な限り対応
4 防犯・防災対策の取組状況	緊急時の連絡体制は整っているか。避難訓練等は実施されているか。	A	-	書類	連絡網整備済み。訓練は年2回(11/19、2or3月実施予定)、消防署立ち合いのもと利用者とともに実施している
	リスクに応じた保険等に加入しているか。	A	-	書類	施設、バスに関する損害保険は市で加入、奉仕作業はボランティア保険加入、有料教室参加者に対する保険加入

評価項目	評価する内容の詳細	評価		確認方法	備考	
		中間	年間			
5	個人情報保護の措置状況	個人情報は適正に管理されているか	A	-	現地	ロッカーに施錠して保管 事務所も施錠
6	経理の執行管理状況	団体のその他の事業との区分を明確にし、適正に経理処理が実施されているか。	A	-	書類 (聞き取り)	書類関係は社協にて保管 経理は区分けて処理
		収支計画書と大きな隔たりはないか。ある場合は、その原因は何か。	A	-	書類	なし
		定められた料金を適正に收受しているか。	A	-	書類	利用料金については別紙参照
7	施設利用状況	前年同期と比較し、利用者数・施設稼働率等に著しい差異がないか。ある場合は、その原因は何か。	A	-	書類	利用者が介護の状態に変わることによる利用者減少が見られる。利用者掘り起こしのために認知症カフェ開設や新たに教室の開催を実施
8	市への報告体制の確保	月例報告・実績報告・その他必要な報告が適切に提出されているか。	A	-	書類	3ヶ月に1度月報提出(3ヶ月分)
9	アンケート調査意見及び対応	アンケートによる意見は、施設によるものが多く、開館から40年以上経過していることから、2階への上り下りが困難になってきたことからエレベーターの設置や土日の開館要望がある。その他、要望に対しては別紙参照。 その他、要望に対しては、できる限り対応している。				
10	今後、検討・調整が必要な事項	全体的に、施設や設備等の老朽化が激しく、修理修繕箇所が頻発している。館内はスリッパでの移動のため、転倒の危険性があることから、全面カーペットとし、スリッパを廃止したい。浴場の設備関係の老朽化、シャワーのお湯が止まりにくい等の修繕箇所があるため整備してほしい。 これらの老朽化した施設や設備については、修繕や更新が行われるまで、適切な維持管理に努める。				
11	今後の管理方針	利用者が高齢であり、利用度が減ってきている。60～70代の若い利用者を増やすため、リズムダンス教室など、魅力ある教室を企画し、まずは施設を利用してもらい今後の利用者の増加に繋げる。 高齢者だけでなく、障害者などの利用も対応していく。				
総合評価	中間評価		年間評価		平成30年度	平成29年度
	A		-		A	A